



のびるほどっ子!

もっと ほっと ずっと

2021. 12. 24



横浜市立保土ヶ谷小学校

「150周年の年に ～1枚の写真から～」

学校長 小川 克之

令和3年も、あと一週間で終わり、新しい年を迎えます。

令和4年も皆様にとって、良い年になることを心よりお祈り申し上げます。

さて、約1年ほど前に川崎にお住まいの郷土史研究家の方から連絡をいただきました。「古本屋から購入した書籍から、保土ヶ谷小学校の昔の写真があったので送ります」とのことでした。3枚ほど送っていただいた写真の中に、明治時代の保土ヶ谷小学校の卒業写真と思われるものがありました。「最後列の山高帽子をかぶっている人は、岡野欣之助校長先生だと思われます」というコメントもありましたので、調べてみました。

岡野欣之助校長は本校第2代の校長で、明治22年から明治26年までの4年間勤務しておりました。つまりこの写真はその頃（今から130年ほど前）月見台に校舎があった時に撮影されたものと思われます。さらに深く調べてみますと当時の時代背景が浮かび上がってきました。

○明治25年頃の小学校では、子どもたちは8年間通っていました。（尋常小学校4年+高等小学校4年）

現在に当てはめると中学校2年で卒業となります。

○当時は授業料を徴収していたため就学率が低く、特に女子は約3人に1人しか小学校に通っていませんでした。

（明治23年は全国で男子65.1%、女子31.1%の就学率であり、全体の平均でも48.9%）

このようなことから、写真をよく見てみますと、女子の数が少なかったり、子どもたちの体が大きかったりすることがわかります。



※写真が鮮明に印刷できないことを、ご了承願います。

創立から現在に至るまで、卒業生、保護者、教職員、地域の皆様をはじめ多くの皆様に支えられてきた保土ヶ谷小学校も来年で150周年を迎えます。節目の年に当たり、改めて関係者の皆様に感謝申し上げるとともに、子どもたち一人ひとりの健やかな成長と、幸せを願ってこれからも教育活動に力を注いでまいります。よろしくお願い申し上げます。